

# ふるさとへぐり再発見

## 長屋王墓

20



梨本に長屋王の墓に治定されている古墳があります。

北東にある夫人の<sup>きびないしんのう</sup>吉備内親王の墓<sup>そうぼ</sup>とともに双墓と呼ばれ、江戸時代より2人の墓との伝承が伝えられてきました。

長屋王は奈良時代の皇親政治家で、左大臣(現在の総理大臣)にまでなり、多くの業績を残しています。

最近の邸宅跡の調査で発見された木簡に「長屋親王」と書かれており、一緒に出土した木簡の内容からもその権勢がこれまでの予想を超えた強力なものであったことが明らかにされつつあります。

また、長屋王邸にいた和舞の名人「<sup>あそんひろたり</sup>平群朝臣広足」を借りたいと宮中の雅楽寮より要請した木簡も出土しています。

これは、長屋王と平群を結びつける唯一の資料であり、王の墓が平群に所在する伝承とつながって来るのかもしれませんが。

当時の正史「続日本紀」には生駒に葬ると記載されているだけで正確な所在地は明らかではありません。

そして、江戸時代になって「大和志」に平群梨本村に双墓があり、2人の墓の伝承が記録され

ます。

井までは御陵苑の住宅に埋まり、離れ離れに見えますが、一昔前までは水田の広がる緩斜面に並んで見えていました。

その後の文献から、明治の末頃に2人の墓に治定され、垣根や鳥居等のある今の姿に整備が進められたようです。

墓は直径15m程の円墳で、生け垣の間から塚の高まりを見ることができます。

今年が長屋王が藤原氏の陰謀により自害して1260年目に当たります。

王の墓かどうかの真偽は別として、王に縁のある塚として大切にしていきたい文化財です。

明治32年の絵図

